

【目次】

1. 企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」がオープン、1月5日！
2. 日本労働会館事務局会議で友愛労働歴史館事業報告を行う、1月9日！
3. 連載「日本労働会館物語」第70回—戦後民主化のリーダー 片山哲 その2—

1. 企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」がオープン、1月5日！



友愛労働歴史館は1月5日（金）、企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」（2018.1.5～6.29）をオープンいたしました。2018年は片山哲（1887.07.28～1978.05.30）の没後40年、片山連立内閣（1947.5.24～1948.3.10）の崩壊から70年となります。友愛労働歴史館はこれを記念し、クリスチャン、弁護士、政治家として活躍し、戦後日本の民主化をリードした片山哲を取り上げた企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」を開催したものです。

企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」の「第1部 片山哲の生涯」では、クリスチャン、弁護士、また政治家（戦前・戦後）として生きた片山哲の90年の生涯を写真や解説パネルで紹介しています。片山哲は人権の擁護と社会正義の実現をめざし、また平和と民主主義のために、その生涯を捧げました。彼は一方で、唐の詩人・白楽天に傾倒し、文人宰相とも呼ばれていました。

第1部 片山哲の生涯 (1887.7.28～1978.5.30)

—クリスチャン、弁護士、政治家として生きた90年—



1887年7月28日、兵庫県淡路市に生まれる。早稲田大学を卒業後、東京府立第一中学校で教員を務める。1911年、早稲田大学で政治学を専攻し、1914年に卒業。1915年、早稲田大学で政治学を専攻し、1918年に卒業。1919年、早稲田大学で政治学を専攻し、1921年に卒業。1922年、早稲田大学で政治学を専攻し、1924年に卒業。1925年、早稲田大学で政治学を専攻し、1927年に卒業。1928年、早稲田大学で政治学を専攻し、1930年に卒業。1931年、早稲田大学で政治学を専攻し、1933年に卒業。1934年、早稲田大学で政治学を専攻し、1936年に卒業。1937年、早稲田大学で政治学を専攻し、1939年に卒業。1940年、早稲田大学で政治学を専攻し、1942年に卒業。1943年、早稲田大学で政治学を専攻し、1945年に卒業。1946年、早稲田大学で政治学を専攻し、1948年に卒業。1949年、早稲田大学で政治学を専攻し、1951年に卒業。1952年、早稲田大学で政治学を専攻し、1954年に卒業。1955年、早稲田大学で政治学を専攻し、1957年に卒業。1960年、早稲田大学で政治学を専攻し、1962年に卒業。1965年、早稲田大学で政治学を専攻し、1967年に卒業。1970年、早稲田大学で政治学を専攻し、1972年に卒業。1975年、早稲田大学で政治学を専攻し、1977年に卒業。1978年、早稲田大学で政治学を専攻し、1980年に卒業。

「第2部 片山内閣の誕生と崩壊」では、1947（昭和22）年に成立した片山内閣の誕生から崩壊（総辞職）までを解説しています。そして片山内閣が民法（家族法）改正、内務省解体、労働省設置などの民主化政策を進め、今日、「戦後民主化のリーダー」と呼ばれていることを紹介しています。また、片山内閣が社会党内左派の造反により総辞職へと追い込まれていく姿を解説しています。

同「第3部 片山内閣を支えた人々」では、片山首相を支えた主な人々を紹介しています。片山内閣に入閣したのは司法大臣に鈴木義男、文部大臣に森戸辰男、農林大臣に平野力三（後任に波多野鼎）、商工大臣に水谷長三郎、労働大臣に米窪満亮、国務大臣（内閣官房長官）に西尾末廣です。また、政務官としては文部政務次官の永江一夫、商工政務次官の富吉榮二、労働政務次官の土井直作がいました。総同盟会長の松岡駒吉は、衆議院議長として片山内閣を支えました。「第3部」では、こうした片山内閣を支えた人々を写真や解説パネルで紹介しています。

第3部 片山内閣を支えた人々

—鈴木義男、森戸辰男、水谷長三郎、米窪満亮、永江一夫—



友愛労働歴史館の企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」（2018.1.5～6.29）をご覧ください。片山哲の人物像と片山内閣の意義について一考していただければと思います。

2. 日本労働会館事務局会議で友愛労働歴史館事業報告を行う、1月9日！

日本労働会館は、①友愛労働歴史館の事業、②労使関係研究協会の事業、③宿泊事業（ホテル三田会館の運営）の3事業を行っています。これらの事業内容の共有化を図るため日本労働会館

は毎月1回、事務局会議を開催し、それぞれの事業責任者から事業報告を受け、相互に確認をしています。1月の事務局会議は9日（火）に開かれ、友愛労働歴史館は展示会活動（入館者数、展示内容、新たな企画展等）や資料の収集・管理、調査研究活動などについて報告を行いました。

3. 連載「日本労働会館物語」第70回—戦後民主化のリーダー 片山哲 その2—

今回の「日本労働会館物語」は「戦後民主化のリーダー 片山哲 その2」で、文人・片山哲を紹介いたします。片山哲（1887.07.28～1978.05.30）はクリスチャン、弁護士、政治家として知られていますが、一方で東西の古典に通じており、特に中国・唐の詩人・白楽天に傾倒したことはよく知られています。



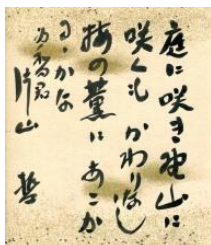
片山哲は白楽天に関する著書を2冊出版しています。一冊は岩波新書（岩波書店）の『大衆詩人 白楽天』（1956年刊行）、もう一冊は現代教養文庫（社会思想研究会出版部）の『白楽天—東洋の詩とところ—』（1960年刊行）です。

片山は自ら作詞もしており、真鶴の自然の美しさを詠んだ漢詩「我年来好鶴清浄 黄鶴迎我登霊峰 真鶴飛舞姿景勝 清節守道愛鶴岬」（1968年秋11月 片山哲）の詩碑が、神奈川県・真鶴町の中川一政美術館近くに建立されています。

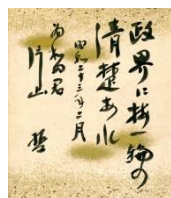


我年来好鶴清浄
黄鶴迎我登霊峰
真鶴飛舞姿景勝
清節守道愛鶴岬
一九六八年秋十一月片山哲

また、片山哲は多くの言葉を色紙に残しています。1948（昭和23）年2月5日、予算委員会の鈴木茂三郎委員長（社会党内左派）は、休憩中で与党議員が離席中に突然、予算委員会を強行開催し、政府予算案を否決しました。党内左派の造反により内閣運営に行き詰った片山内閣は2月10日、総辞職に踏み切ります。右の短歌は片山哲がその折の心境を詠んだもので、「庭に咲き野山に咲くもかわりなし 梅の香りにあこがるかな」です。政権にあっても野に下っても政治家として憧れる理想、想いは変わらない、という片山哲の気持ちが詠まれている歌です。この色紙は片山哲が和田一仁氏（故人、衆議院議員）に贈ったものです。



庭に咲き野山に
咲くもかわりなし
梅の香りにあこ
がるかな
片山哲



片山哲は和田一仁氏へ「高遠の理想 質素の生活」、「政界に一輪の清楚あれ」の2枚の色紙も贈っています。何れも片山哲の想いが込められている言葉です。なお、和田一仁氏は片山哲の社会民衆党時代からの盟友、和田操（クリスチャン、東京市議会議員、和田印刷経営者）の子息で、民社党で衆議院議員を務めたクリスチャンです。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

唯一館から124年、友愛会から106年